

学校教育目標

未来に向かって 心豊かにたくましく 自ら学ぶ生徒の育成

学校だより 「この丘に」

発行：仙台市立南中山中学校

令和3年3月19日

校長 岡田 雅彦

生徒数 543名(令和3年3月1日現在)

〒981-3213 仙台市泉区南中山 2-26-1

TEL 022-376-3127 FAX 022-348-2358

URL <http://www.sendaic.ed.jp/~emuchu-x/>

e-mail emuchu-x@sendai-c.ed.jp

◇ ご協力ありがとうございました ◇ 校長 岡田 雅彦

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により異例の6月スタートとなった令和2年度の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。この一年間のお子さんの成長ぶりはいかがだったでしょうか。身長や体重のように目に見える成長だけでなく、できるようになったことがたくさんあることにお気づきのことと思います。

4月からの新しい学年を迎えるこの時期は、学校としても一人一人の子供たちの成長を見つめるとても大切な時期です。日々の教育活動を通して、学力向上はもちろんのことですが、多くの目で子供たちの様子を見ることで、子供たちが持っている能力をできるだけ発揮できるようにと努めてまいりました。子供たちのこの一年の成長を、進級を機に次へのさらなる成長へとつなげていきたいと思ひます。

子育てはいろいろと難しいことも多くありますが、親として我が子が将来どのような大人になってほしいのかをしっかりと考えることが大切だと思います。その上に立って、今子供に求めることは何なのかを伝えていくことが必要なのではないのでしょうか。

令和2年度の学習が修了するこの3月中に、お子さんとこの一年間の成長を振り返ってみたいと思ひます。私たち教師集団も一人一人の子供に合った指導を常に模索しています。保護者の皆様や地域の方々と一緒に考え、共に子供たちの成長の喜びを感じ、子供たち一人一人に寄り添いながら、学校教育活動をより一層進めてまいりたいと考えています。

おひせ

『南中山中学校カタリツグプロジェクト～東日本大震災から10年
あの記憶を風化させないために 今

学校ができることは何か！～』

東日本大震災から10年の節目となる年にあたり、当時の記憶を風化させないために、そして自助・共助の意識を次代に受け継いでいくために、故郷復興プロジェクトを実施しました。

2月末から計画的に進めてきた7つの活動についてご紹介いたします。



生徒・教職員の家族や自宅、校舎が津波被害を受けながらも、生徒とともに地域の復興を目指した『復興雄勝太鼓』の活動を通して、“たくましく生きる”こと、その力を身に付けることの大切さについてお話をいただきました。命の尊さ、助け合うことの素晴らしさについて考える機会となりました。

生徒の感想

自分にできることは「支える・助ける・寄り添う」ことだと思います。一人では何もできない。だからこそ、周りの人との関わりが大切だと思います。自分を中心に考えるのではなく、みんなで生きるためにできることを探すことが、本当の「生きる」ことだと思います。～一人はみんなのために、みんなは一人のために～この言葉を忘れずに過ごしていきたいと思ひます。(3年女子)

1. 記念講演会の開催

2月26日(金) 講師に錦ヶ丘中学校長の佐藤淳一先生をお迎えし、震災当時の雄勝中学校長としてのご経験を基にご講話いただきました。

2. 図書委員会による震災関連の図書紹介(特別展示コーナー設置)

震災関連図書のリストを作成して昇降口、図書室に案内を掲示するとともに、図書委員による呼

び掛けを昼の放送で実施しました。さらに、岩手・宮城・福島を話題とした課題図書を設定し、読書した冊数でスタンプを集めるゲーム的な要素を取り入れながら、生徒の学びを深めています。



3. 国語教育とNIE教育とのコラボ 「震災当時の新聞記事から学ぶ」



国語科の授業の中で震災関連の新聞記事を活用し、東日本大震災とはどのような災害であったのか、人々の生活に与えた影響はどのようなものであったのかに

ついて、記事から読み取り、今後どのように生きていくのかを考えました。また、新聞記事だけでなく関連図書やインターネットを活用し情報を集めてレポートにまとめる学習を行いました。

4. 総合文化部による作品展示

総合文化部の取組として、復興のメッセージを込めた壁画をデザインし昇降口に掲示しています。



現時点での4月の行事予定です。今後の状況により変更する場合がありますので、ご了承ください。年間行事予定については、決まり次第、学校ホームページに掲載する予定です。

日	曜	予 定	日	曜	予 定
5	月	新入生予備登校	19	月	会議のため部活中止
8	木	着任式 始業式	20	火	MKアップデー
9	金	第34回入学式 部活中止	21	水	生徒会任命式
12	月	補助教材集金 写真撮影 発育測定	23	金	自転車安全講習会
13	火	仙台市標準学力検査	27	火	小中連携推進会議のため部活中止
14	水	対面式	28	水	授業参観 父母教師会総会 学年総会 学級懇談 部活中止 弁当
15	木	開校記念日 職員会議のため部活中止 仙台市標準学力検査予備日	29	木	(祝) 昭和の日
16	金	専門委員会	30	金	部活動集会

< 詩人 相田みつをさんの「人間だもの」の中の言葉を紹介します >

「長い人生には自分の思いが通らぬことがたくさんある。むしろ自分の思うようにならない方がはるかに多いのが人生だ。それならば人生の目標を思うようにならない方に合わせるべきだ。思うようにならない、それは言葉を言い換えれば「負けること」。自分の思う通りにかっこよく勝てることなど人生では極まれだ。小さい時から負ける練習を積んでおけば、成人してから負けに強い人間になれる。人生における波風、どんな屈辱にも耐えてまっすぐに自分の道を歩いていけるような『命の根』を作っておこう。」

人にはそれぞれに個性があり良さがああります。自分を信じて、失敗や苦しさを恐れず、さまざまなものにチャレンジし、強い心と優しい心を持って大きく羽ばたいてください。そう願っています。

5. 食育の視点からの給食献立メニュー

3月1日、震災で被害を受けた地域の特産物（三陸産海苔、金華さば、気仙沼産フカヒレ、亶理イチゴ）を取り入れた給食を通して、食の視点から復興について考える機会を設けました。



3月1日、震災で被害を受けた地域の特産物（三陸産海苔、金華さば、気仙沼産フカヒレ、亶理イチゴ）を取り入れた給食を通して、食の視点から復興について考える機会を設けました。

6. 生徒会執行部による企画

給食時に復興ソング“仲間と共に”を放送したり、「生徒会新聞・震災特別号」を発行したりしました。

7. 防災副読本「3.11から未来へ」を活用

震災体験絵本「トミジの海（石巻市鮎川浜の漁師さんの話）」を宮城県出身の山寺宏一さんが朗読したYou Tube 動画資料の活用、防災副読本「自助につながる判断、行動」「共助の一翼をになう」を活用した学習を通して、震災当時の中学生の活躍の様子を知ることができました。



以上の取組を機に、これからも防災に対して興味・関心を高め、いざというときの備えとしての力を身に付けてほしいと思います。